

特殊報

令和 7 年 8 月 1 日
奈良県病虫害防除所長

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報 第 1 号

1. 病虫害名 チュウゴクアミガサハゴロモ *Pochazia shantungensis* (Chou & Lu)

2. 対象作物 カキ等の果樹および樹木類

3. 特殊報の内容 農作物における被害を初確認

4. 対象地域 奈良県全域

5. 発生確認の経緯

- (1) 令和 7 年 6 月に、奈良県南和地域のカキ園地で、チュウゴクアミガサハゴロモと疑われる昆虫が多発しているとの通報がありました。発生園地では、成虫および幼虫（写真 1～4）が多発しており、枝に特徴的な産卵痕が確認されました。
- (2) 成虫を採集し、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、チュウゴクアミガサハゴロモであると確認されました。
- (3) 現在のところ、大きな被害は確認されていません。

6. 生態と被害

- (1) 本種は中国原産で、国外では韓国、トルコ、フランス、ドイツ、イタリアなどに分布を拡大しています。国内では平成 27 年に大阪府で初確認されて以降、関西以西の本州、四国、九州に広がっており、令和 6 年から 7 年度には群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、富山県、福岡県、熊本県から発生予察特殊報が発出されています。
- (2) 本種はカメムシ目の昆虫で、成虫の体長は 14～15mm、前翅は茶褐色～鉄さび色、前縁中央に三角形または扁平な白斑があるのが特徴です（写真 1、2）。
- (3) 幼虫は白色で、腹部から白い糸状の蠟物質の毛束を広げ（写真 3、4）、背面には小黒点を有します。刺激で跳躍する習性があります。
- (4) 成虫・幼虫ともに枝に寄生し吸汁加害します。多発すると排泄物により「すす病」が発生する場合があります。
- (5) 成虫は直径 10mm 以下の枝に樹皮を剥ぎ取って産卵し、枝の損傷や枯死の原因となります。産卵痕は白色で毛状の蠟物質で覆われています。
- (6) 本種は広食性であり、多くの植物に寄生します。農作物では、リンゴ、ナシ、モモ、カキ、クリ、イチジク、ブルーベリー、カンキツ、チャのほか、植木類での発生が報告されています。

7. 防除対策

- (1) 令和 7 年 7 月現在、本種に対して登録のある薬剤はありません。
- (2) 成虫や幼虫は捕殺します。また、産卵された枝を見つけた場合は、切除して持ち出

し、ビニル袋に密封するか土中に埋却するなど、適切に処分します。



写真1 カキ葉上の成虫



写真2 成虫



写真3 カキ葉上の幼虫



写真4 幼虫

お問い合わせは

奈良県病害虫防除所

TEL. 0744-47-4481

その他関連情報は以下をご覧ください

病害虫防除所ホームページ

<https://www.pref.nara.jp/1557.htm>

奈良県農薬情報システム（農作物病害虫・雑草防除指導指針）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/nara>